



天文資料

2018年 9月号

平成30年度 第6号 (9月号)

平成30年 8月29日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<遠ざかる火星だが、9月中はまだ明るい。9月24日は中秋の名月。>

7月31日に地球に最接近した火星は、やぎ座を東向きに横切って(順行して)みずがめ座に向かいながら次第に遠ざかっています。

マイナス2.8等級で輝いていた姿も少しずつおとろえてきていますが、明るい星の少ない秋の星座の中では、まだ目立つ存在です。

その西側にある土星もいて座でまだ観望できますが、10月が近づくと西空に傾く時間が早くなってきます。今月が環の開いた姿を見ることができる、今年最後の月となりそうです。南の空は季節が夏から秋に替わりつつありますが、天頂を見ると、夏の大三角はまだ陣取っていて、夏の勢力を保っています。しかし、東の空に目を向けると、ペガス座を形作る秋の四辺形の姿が...。こちらも少しずつ秋の星座に主役が移っていきそうです。



国立天文台HPより

これまで惑星に話題をさらわれてしまった感のある天の川ですが、20時頃は南のいて座から天頂のはくちょう座にかけて縦方向に流れています。双眼鏡を向けると、たくさんの星が瞬いている様子を見ることができます。3万光年から8万光年も離れた星々からの光はかすかなものですが、微光星の中にたくさんの星雲や星団があるので、楽しく観望ができます。(10秒程度で写真にも写ります。)

秋の日はつるべ落としと言われるとおり、日暮れがどんどん早くなってきます。そのような中、9月24日は中秋の名月となります。翌25日が満月ですので一日前の名月となりますが、涼風も吹く頃となりますので虫の音も聞きながらその姿を楽しんでください。

<はやぶさ2がリュウグウに到着(2018年6月27日)>

2014年12月3日に種子島宇宙センターから打ち上げられた小惑星探査機はやぶさ2が、3年7か月の旅を経て2018年6月27日に小惑星リュウグウに到達しました。リュウグウはC型小惑星(※1)に分類されています。C型小惑星には、その構成物質に有機物(※2)や水が含まれていると考えられています。はやぶさ2の目的は、地球誕生の謎にせまることに加えて、海の水の起源や生命の原材料となった有機物の起源を探ることです。はやぶさ2は、これから約18か月リュウグウに滞在して数回着陸し、小惑星表面や内部の物質を採取するなどのミッションをこなして、2020年末に地球に帰還(サンプルリターン)する予定です。

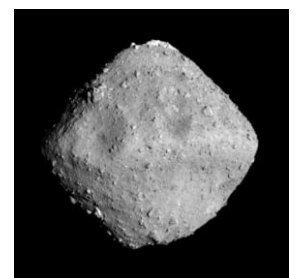
東京オリンピックの年に地球に帰還するとは、なんと素敵な話でしょう。

※1: 炭素系の物質を主成分とする小惑星。はやぶさが到達したイトカワのような岩石を主成分とする

S型小惑星よりも、太陽系初期の情報を多く保っているとされる。

※2: 炭素(C)を含む物質(化合物)の大部分をさす。ただし、二酸化炭素、炭素、一酸化炭素は有機物

には分類されない。



JAXA. HP より